



九州大学 博士課程教育リーディングプログラム
グリーンアジア国際戦略プログラム
Kyushu University Program for Leading Graduate Schools
Advanced Graduate Program in Global Strategy for Green Asia

第9回「北海道大学・九州大学 合同活動報告会」報告

九州大学 総合理工学研究院 教授
原田 明

平成26年2月1日(土)13:30~18:30、東京都千代田区の都市センターホテルにて、表題にある会議が開催された。この報告会は、法人化直後の頃に梶山千里前九大総長の提案により第1回目が開催されたものと聞け、毎年異なるテーマを掲げて開催されており今回で9回目を数えている。今回のテーマは「大学の国際化」。その名の通り、2つの大学から総長、研究担当理事、同窓会主要メンバーにご参加頂き、参加者はおおよそ140名(スタッフを除く)と盛会であった。

山口佳三北海道大学総長、有川節夫九州大学総長、吉田大輔文部科学省高等教育局長の挨拶に引き続き、川端和重北海道大学理事、藤木幸夫九州大学理事から各大学の活動報告が行われた。その後、テーマに沿った4件の講演とパネルディスカッションが行われた。演題は以下の通り。

「新渡戸カレッジについて」北海道大学・杉浦秀一教授

「国際化教育はどこまで進んだか」九州大学・緒方一夫教授

「人口・活動・資源・環境(PARE)の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラムについて」北海道大学・波多野隆介教授

「グリーンアジア国際戦略プログラム」(筆者)

筆者の講演については、大部分が本プログラムNEWSLETTER (Vol.1~3)やホームページ記載の内容であり追加して書くことも無いが、同窓生からの“厳しい教育プログラムなので、脱落した学生はどうするのか”との質問が印象的であった。回答は、勿論、ケースに応じて修了・進学・就職できる道を用意しているというものである。総長、理事のお話を含めて講演された先生方の話には、参考になることが多かった。例えば、北海道大学では同窓生の方にフェローとして教育参加を依頼しているとのことであり、教育効果が高いのは間違いないと感じられた。我々も考えたいところである。パネルディスカッションでは、北海道大学・難波美帆特任准教授の司会で教育の国際化について意見交換が成された。私見を交えて結論のみ記述すると、2つの大学に於いて教育の国際化は必須かつ必然であり、体制整備を進める必要がある。学部専門教育に関しては、英語での講義と、日本語での講義の並列化が望ましい。

講演会終了後の交流会では、多くの同窓生の方とお話しができ、十二分に楽しむことができたとともに、極めて有益な時間を過ごせた。末筆ながら、企画を担当された両大学の関係者に、本企画に招いて頂いたことに感謝します。

